

第2学期終業式式辞

皆さん、おはようございます。長かった2学期も、今日でおしまいです。3年生の中には、来年の入試に向けてラストスパートをかけている人もいることでしょう。体調面に留意しながら、最後まで頑張ってください。

さて、今回は、最近その重要性が再認識されている判断力についてお話します。判断力とは文字どおり「物事を正しく認識し、評価する能力」です。近年、インターネットやスマートフォンなどの普及により、様々な情報が世の中にあふれています。当然のことながら、その中には正しい情報もあれば、誤った情報もあります。

その一つの例として、2011年に起こった東北大震災を取り上げて説明します。今から12年前ですから、皆さんもうっすらと記憶が残っているのではないのでしょうか。

私は、その時のことを今でもはっきりと覚えています。職場でインターネットのニュースを見ていると、東北地方で大きな地震が発生したというニュースが流れました。そのあと、慌ててテレビをつけると、車や家が流されていく光景が画面に映し出されました。そして、地震発生から50分後、福島第一原子力発電所を津波が襲い、発電所内の施設や設備が損傷を受けました。その結果、大量の放射性物質が外に漏れ出すという大惨事になりました。

震災直後から、東北地方を中心に、電話やインターネットがつながりにくい状況が生じます。そのため、被災地の方々はもちろん、他の地域の人々も現地の状況が分からず、焦燥と不安を募らせました。

そういった混乱の中、震災直後から、インターネットの掲示板や SNS で誤った情報が流れ、それらがまたたく間に拡散しました。当時、流れた偽情報の中には、「石油コンビナートの火災により、有害物質が雨などと一緒に降るので注意」「略奪が多発している」「放射性物質から甲状腺を守るためにうがい薬を飲め」などがありました。

こういった現象は、関東大震災など、過去の災害時にも見受けられました。また、最近では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、様々な流言卑語が飛び交いました。たとえば、「ワクチン接種によってコロナに感染した」「トイレットペーパーが不足する」「お茶・紅茶を飲むと新型コロナウイルス予防に効果がある」など、数え上げたらきりがありません。

総務省が行った調査によると、人々がこれらの偽情報を得たマスメディアとして、SNS だけでなく、テレビやニュース配信、新聞などがあげられています。SNS 以外に、テレビなどのマスメディアも関係していたという結果を聞くと、意外に思うかもしれません。しかし、過去の歴史をひもといてみると、テレビやラジオ、新聞といったマスメディアが誤った情報を流していたという事例が散見されます。

このような話をすると、「では何を根拠に情報の真偽を判断したらよいのか」と困惑するかもしれません。特に、現在のような情報社会では、情報の真偽が各方面に大きな影響を及ぼす可能性がありますし、それによって被害を受ける人が出るかもしれません。

したがって、様々な情報の中から、何が正しくて、何が間違っているのか、ということを手で自ら判断する力を身に付ける必要があります。もちろん、判断力は、情報の真偽を見極めるだけでなく、何らかの選択を迫られた場合、最適

解を導き出すためにも用いられます。

では、どのようにすれば判断力は身に付くのでしょうか。具体的な方法をいくつかあげてみますので、参考にしてください。

- ① 普段から判断の材料になる様々な情報に接する。できれば、ネット上の情報だけでなく、テレビや新聞、雑誌など様々なメディアの情報もチェックする。また、同一のメディアでも、一つの媒体だけでなく、複数の媒体の情報をチェックする。
- ② 自分で考え、判断する。他人に判断を任せるのではなく、普段から自分で判断するようにする。
- ③ いろいろな人に出会ったり、様々な経験をしたりする。多くの経験を積むことで、判断材料が増えます。
- ④ 日々の言動を振り返る。自分の言動を振り返って、次の判断に生かす。

今述べたことはあくまで参考例です。皆さん一人一人が、自分に合った方法を見つけてください。

それでは、少し早いですが、良い年を迎えてください。以上で私の話を終わります。